

令和6年度 学校評価自己評価表（中間評価）

三次市立和田小学校

【学校教育目標】 つながりを大切にし、自ら考え、行動・挑戦する子供の育成												
【めざす子供像】 つながる子 考え行動する子 挑戦する子						【使命・存在意義】 なりたい自分の夢の実現のために、和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して、ふるさと和田への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。						
◎つながる子（ひと・もの・ことと関わる子、認め合う子） ＊学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養【主体性】【協働性】 ◎考え行動する子（学ぶ喜びを感じる子、考え行動する子） ◎挑戦する子（自分の夢や目標に向かって挑戦する子） ＊生きて働く知識・技能の習得【知識・技能】 ＊未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成【思考力】【判断力】【表現力】						【評価基準】 （達成値）÷（目標値）×100の値 A: 目標を達成（100以上） B: 目標をほぼ達成（85以上100未満） C: 目標を下回る（75以上85未満） D: 目標を大きく下回る（75%未満）						
中期経営目標	短期経営目標		具体的な取組・方策	評価項目	中間 目標値	最終 目標値	中間評価 （10月）	最終評価 （2月）	結果と課題の説明	改善計画	関係者 評価	（ご意見）学校関係者評価 A: 適切 B: 不適切 C: 改善が必要
確かな 学力の 定着	基礎・基本の 力、 活用力の定着	1	・分かりやすい授業、個に応じた指導により、基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ICT等の活用により、思考を深め、表現するとともに、学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上	92		A		・児童アンケートで「授業が分かる」と回答した児童は92%で、目標値を上回った。	・学力の定着に個人差があるため、授業中やパワーアップタイム、休憩時間等を活用して個別指導を行う。	A	・個別最適な学びで、一人一人の子供の実態から学習内容を考えられていることが良い。 ・パワーアップタイムで、基礎基本の力を付けられている。
				・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準（70%）以上の児童の割合85%以上	80		B		・単元末テスト(国算理)「思考力・判断力・表現力」における基準以上の児童の割合は80%であり、目標値を下回った。 ・学習環境の整備や、個に応じたワークシートの作成等、学びの選択肢のある授業作りを行った。	・全学年、算数科に課題があった。問題を正しく把握し演算決定を行うことができていないため、キーワードや問われていることを整理させたり、具体物や視覚支援・図・表等を使って、解いたりできる手立てを工夫する。	A	・個々の児童の理解度を見取る評価の在り方を引き続き研究し、生かして頂きたい。
	主体的な学び	2	・児童が疑問や気付きをもち、解決する学習を仕組む。 ・児童自ら考えて取り組む学習をファンリテートする。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	50		D		・職員アンケート「各教科の見方・考え方を働かせた授業の実施」について肯定的回答をした教職員は50%と、目標値を下回った。	・各教科の見方・考え方を働かせるための発問や授業の流れを意識して取組むことができなかった。2学期は、意識して見方・考え方を働かせる授業づくりを行う。	B	・職員の率直な思いを数値で出されていることは、評価できる。 ・自由進度学習を取り入れられたが、準備が大変である。 ・教科の見方・考え方を理解しているという、具体的な視点が必要だと思う。
				・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」80%以上	90		A		・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」と肯定的回答をした児童の割合は90%と目標値を上回った。 ・見通しをもたせて解決方法を考える場の設定を行ったことで、主体的な問題解決につなげることができた。 ・理科では、「比較」「関係付け」の考え方を意識した授業づくりを行った。	・理科で身に付けた比較・関係付けの考え方を他教科へつなげる教科横断的な指導や、活用できる場の設定を意図的に行う。	A	・児童実態と職員の思いとの開きがある。 ・自ら考える力は、これから必要な力だと思う。
豊かな 心の 育成	人を思いやる心の育成	3	・読書習慣を身に付け、豊かな感性（知識力・想像力・集中力・語彙力）を育む。 ・道徳など教育活動全般において、人とつながる心を育む。	・読書目標（低：月8冊、高：月4冊又は600ページ）を達成した児童の割合78%以上	87		A		・読書目標を達成した児童の割合は87%で、目標を上回る結果だった。読書朝会を増やしたことや児童の実態に合わせた評価基準を設けた結果だと思われる。達成できなかった児童の理由は、カードの紛失や記入ができていないことなどだった。	・読書については、記録カードへの記録を引き続き呼びかけるとともに、読書の楽しさや面白さを感じられるような活動として、2学期は委員会による読み聞かせのほか、職員による読み聞かせを予定している。委員会による賞状渡しを継続し、読書の意欲につなげる。	A	・読書カードをタブレット管理できる方法も考えたらどうか。 ・日々の積み重ねによる取組の成果が出ている。
				・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	83		A		・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」の結果は、83%だった。悪いと思ったら自分から謝ることができる児童が多い一方で、悪口や相手が嫌がることをする、困っている友達に声をかけることが難しい児童もいる。	・悪口や相手が嫌がることをする、困っている友達に声をかけることが難しい児童がいるという実態から、道徳の時間に道徳的価値を高める学習活動を取り入れる。あわせて機を逃さず、日常的な学級活動において他者意識がもてるような指導を工夫する。また、和伸会執行部の活動として、友達の良い所を認められるような活動や仲を深められるような活動を取り入れる。	A	・家庭でも子供の口から友達のことを「大丈夫かな」と話しており、仲間を大切に思う心情が育っていると思う。
	人権意識、自己 有用感の向上	4	・気持ちのよい挨拶をする。 ・縦割り班活動、委員会活動、学級活動等で他者と協働して取組む。	・児童アンケート「レベル3(相手の目を見て)の挨拶ができた」85%以上	83		B		・児童アンケート「レベル3(相手の目を見て)の挨拶ができた」の結果は83%だった。挨拶はしているが、相手の目を見ての挨拶はできていない児童がいる。	・挨拶については、相手の目を見て挨拶ができない児童もいるので、通学班会議や学級、全体で指導を行い、レベル3以上の挨拶名人を目指す。和伸会執行部のあいさつ運動を、2学期は低学年にも伝わるように視覚的に呼びかける、あいさつ運動の頻度を増やすなどして工夫して行う。	A	・挨拶は良くできている。 ・自分から挨拶の大切さが語れるように指導してほしい。
				・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	80		A		・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」の結果は80%だった。仕事を忘れずすることや友達と協力することはできる。しかし、自分の意見を言い話し合いに参加している児童の割合が少なかった。学年が上がるにつれて、低くなる傾向が見られる。自分の考えを伝えるのが恥ずかしい、自信がない、自分が発言しなくても話が進むなどの理由が考えられる。	・指導者が意図的にペア活動等を取り入れ全員が話し合いに参加できる機会を設ける。肯定的に聴く姿勢を育成し、「話してよかった」「間違っても良いんだ」と思えるような雰囲気をつくり話し合いの活性化につなげる。	A	・自分の意見をはっきり伝えることができている。 ・集団思考の場面で、お互いの成長を共感できるよう焦点化して取り組んでいる。
健やかな 体の 育成	基礎体力の向上	5	・体育科の授業、委員会等の児童の主体的な取組により、体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業、委員会、体育的行事の充実」85%以上	91		A		・職員アンケート「体育科の授業の充実」は90.5%だった。 ・どの学年も授業の中でインターバル走を取り入れ、児童の運動能力に応じた取組や、授業の振り返りを行っている。 ・体育の授業のめあては伝えられているが、視覚的に残していない学年もあった。 ・運動会や水泳の授業では、どの児童も意欲的に取り組む姿が見られた。	・児童がいつでもめあてを意識できるように、ホワイトボードやICTを活用して提示する。 ・引き続き、児童実態に応じた指導や、各単元ごとの振り返りを取り入れる。 ・春に行った新体力テストの結果から、走力に課題があったので、10月24日に元オリンピック選手を招聘する走り方教室を開催する予定。また、保健員会活動でトレーニング動画を作成する予定。	A	・子供から「体育が楽しかった」と聞いており、継続してもらいたい。
	基本的な生活習慣の確立	6	・メディアの使用の仕方を自ら管理し、健康な生活を送る。	・児童・保護者アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上	79		B		・「家でのメディアルールが守れている」についてのアンケート結果は、児童は80%、保護者78%だった。2カ月に1回・1週間のメディアウィークの達成率は、児童・保護者とも数値に大きな差はなかったが、しかし、学校生活アンケートの保護者評価では、普段の生活のメディアルールは、49%しか守れていなかった。	・引き続き、2カ月に1回のメディアウィークで、自分のルールを再確認し、普段から気を付けるよう声かけを行う。また、保健指導や、掲示物から健康についてメディアと上手付き合っていく姿勢を身に付けさせる。	A	・メディアのルール作りや正しい利用法について、保護者へ啓発をしてほしい。
				・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上	77		B		・「我が子の使用実態を把握している」についてのアンケート結果は、76.9%だった。	・保護者へメディア利用の留意点等を啓発するとともに、PTA活動と連携した取組の実施を考えていく。	A	・保護者へ啓発をしていく必要を感じる。 ・親の見ていないところで使用していることもあると思うので、しっかり保護者が把握できるようにしたい。
信頼 される 学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	7	・小中一貫教育を基盤とし、地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校評価を学校運営に生かす。	・外部関係者を招聘した教育活動各学年2回以上	100		A		・外部関係者を招いた地域教育活動は、各学年計画的に実施できた。 ・学校関係者では、三次市教育委員会訪問(5月)、北部教育事務所訪問(6月)、三次市内校長会(7月)、市長学校訪問(9月)を実施し、児童の学習の様子や、学校の教育活動の取組について公開している。 また、10月10日には、和田小学校公開研究会として、72名の関係者に児童の主体的な学習の取組の成果を広く公開することができた。	・外部関係者の招聘については、引き続き計画的な運営を行っていく。 ・いつ誰が来校されても、授業参観が出来るような体制を整えていく。	A	・地域との交流を活発にしており、成果が出ている。 ・学校と地域社会がつながり、本物の社会人としての資質を育てる場でもあると思う。
				・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上	90		A		・保護者アンケートの結果から、「学校の教育方針がわかる」の肯定的評価は87.2%、「教職員は熱心に取り組んでいる」の肯定的評価は94.9%、「児童の力を延ばす授業である」の肯定的評価は87.2%であった。平均89.7%である。	・日々の授業実践や学力向上の取組を充実させるとともに、些細な出来事も保護者連絡するなどの保護者連携を密にすることで、学校への信頼度を向上させる。また、学力向上の取組成果を、1月の三次市学力到達度検査での結果で保護者へ説明する。	A	・教師の学びの姿勢が、子供の主体的な学びにつながっている。 ・和田小スタイルの教育活動を継続してほしい。
	働き方改革の推進	8	・業務改善の推進、職員のタイムマネジメント力の向上を図る。 ・職員の超過勤務月45時間以内100%以上		100		A		・業務改善を促進するため、毎週月、水、木、金曜日は18時00分の退校、毎火曜日は17時30分の退校とし残業時間の短縮を図っている。 ・4月から9月までの超過勤務時間は平均20.22時間である。月45時間以上の勤務者は0%である。	・引き続き、定時退校時間の徹底や、計画年休の取得を進めていく。 ・効率的な職務運営ができるように、各部会の主体的な運営を指導していく。 ・働きやすい職場にするため、職員への日常的な声かけなどを行いストレスなく働ける職場環境を構築していく。 ・引き続き、超過勤務時間が月45時間以上0%を目指して、働き方を再考していく。	A	・チームワークよく組織的に取り組んでいることがよく分かる。